

3/24

手順を確認せず
羽根車押し込む

敦賀2号機トラブル

日本原子力発電（日本原電）敦賀原発2号機（敦賀市）で二月、非常用ディーゼル発電機の冷却水ポンプの軸が曲がっているのが見つかったトラブルで、日本原電は二十一日、原因と対策を原子力規制委員会と県に報告した。点検で交換した新しい部品を取り付けの際、作業手順を確認せずに無理に押し込んだことが原因だったと説明している。

トラブルは定期検査で分解点検した発電機で、冷却する水を循環させるポンプを交換した後の試運転中に起きた。冷却水を回す羽根

車（直径三十三センチ）が割れ、回転軸が〇・一八ミ曲がっていた。

日本原電によると、新品に交換した羽根車と固定ナットが元の位置まではずらず、施工業者が無理に押し込んだことで羽根車にゆがみが発生。さらに微調整でナットを削る際の施工ミスが重なり、羽根車が傾いた状態となって周囲に接触した。

日本原電は部品を新品に取り換えて傾きの有無を調べるとともに、初めて部品を交換する際には手順をメーカーに確認して工事の要領書に記載するという。県原子力安全対策課は、関西電力などにも注意を呼び掛ける。